

クラウドに集中投資、IBM、SAP商材に活路

福岡情報ビジネスセンターは、長年、日本IBMのビジネスパートナーとして実績を積んできたが、近年、同社のIaaS/PaaSである「IBM Bluemix」や、AIの「IBM Watson」を活用した新たなビジネスモデルに大々的に転換すべく、先行投資してきた。

武藤元美代表取締役は、「クラウドファースト、そしてAPIエコノミーの世界が現実になってきた。テクノロジーの進化は、お客様のビジネス環境の変化を加速度的に速めている。ビジネスプラットフォームとしてのITも、お客様とベンダーが一緒になって、常に動いているビジネスの基盤であり続けられるようにしなければならない。それには、アジャイル開発とDevOpsを正しく普及させることが不可欠だと考えている」と強調する。そのために、同社が仕掛け役となって、日本IBMも巻き込み、九州地区内でさまざまなハッカソンイベントを開催してきたほか、武藤代

表取締役は、UOS（ユーオス・グループ）理事長を昨年まで務めていたが、UOS理事長として、「DevOps推進協議会」の発起人にも名を連ねている。「日本が国として国際競争力を持ち続けるためには、ユーザーもITベンダーもビジネスモデルを変えなければならない」（武藤代表取締役）との問題意識のもと、自社のみならず、中堅SI業界全体の変革に向けた取り組みにも積極的だ。

自社のビジネスにおいても、坂本新・Cognitive Service事業部事業部長が「日本で7人しかいない、The 2017 IBM Champions for Cloudを受賞した」といい、Watsonの活用では日本でトップレベルのソリューションを提供できる体制を整えているという。

また、IBM製品以外にも、SAPのクラウドERP「Business ByDesign」も扱う予定で、SaaS領域の基幹システムパッケージも揃え、顧客のビジネス変革をより網羅的に支援してい



左から武藤元美・代表取締役、坂本新・Cognitive Service事業部事業部長、持永泰孝・Marketing事業部事業部長、武藤友春・Marketing事業部営業担当

たい方針だ。このビジネスを担当する持永泰孝・Marketing事業部事業部長、同事業部営業担当の武藤友春氏は、「当社にとっては大きなチャレンジだが、顧客の業務に関する知見・ノウハウを蓄積してきているので、それを生かすことができれば成長の新しい糧になる可能性がある」と力を込める。

近年は、クラウドビジネスへの転換に先行投資してきたため、利益が出にくかったというが、「DevOpsのストック型案件も増えてきて、向こう1、2年で大きく成長する手応えを感じている」（武藤代表取締役）ということだ。